

世界のサプライヤー プリントグループ

版材やインキなど印刷関連資材の製造・販売事業でグローバル展開するプリントグループは近年、日本を含むアジア市場に注力している。特に、凸版印刷が主流のアジア市場向けとして、樹脂凸版の開発を推進。5月には、タイで開催される「ラベルエキスポ東



ロイ・ショットレ 副社長

(内田)

久保井インキをパートナーに日本市場で展開 樹脂凸版の新製品開発を推進

南アジア2018」で新製品の発表を目指す。日本市場では06年、久保井インキ(株)(大阪市東成区東今里、久保井伸輔社長、06・6973・6211)と樹脂凸版の販売展開に関してパートナーシップを締結。ラベル分野などへ積極的なPRを行う。プリントグループの日本ならびにアジア地域のビジネス戦略について、ロイ・ショットレ副社長に話を聞いた。

久保井インキをパートナーに日本市場で展開

最初、世界市場でラベル向け版材に関するトレンドについてお聞きしたいのですが

「ラベルに限らずパッケージ市場全体に言えることですが、フレキソ方式に対する技術革新が進んでいます。版材自体の高性能化はもちろん、それに加えて溶剤規制に伴う「脱溶剤化」が顕著となっており、従来の樹脂凸版も堅調

ですが、欧米市場ではフジタ印刷の普及も一段と活発化しているからではないでしょうか

「そのような中で、貴社が進めるビジネス戦略は「フラットトップドット技術を含む高機能感光性樹脂版の開発はもちろんですが、当社では脱溶剤化に関して、サーマル方式の技術開発に注力する方針です。水現像方式は短時間で

処理からも解放されます。そのような観点から、当社ではサーマル方式のフレキシブル製版に関する技術向上を目指しているのです」

「また、地域として日本を含むアジア・パシフィック地域への積極的な展開を推進しています。中でも日本市場は、われわれプリントグループにとって重要な市場と位置付けており、品質の高さやサービス対応の

の製版やUVインキに対する親和性といった観点で注目されていますが、現像工程での廃液の取り扱いや版自体の耐久性などで課題があります。一方、サーマル方式はUVインキだけでなく、さまざまなインキに対応する能力があり、短時間で製版可能、煩雑な廃液の

充実から、アジアのリーダ的存在と言えるでしょう。そのような観点から、当社では現在、樹脂凸版の展開で久保井インキとパートナーシップを結び、レベルの高いサービスを日本市場での版材供給体制を構築しています。久保井インキは、ラベルを含めたナロー

ウェブ印刷分野で高い信頼を得ており、樹脂凸版を日本市場で展開するに当たって最良のパートナーと認識しています」

「樹脂凸版が圧倒的シェアを占める日本市場でどのような展開を」

「日本をはじめアジア地域のラベル市場は、樹脂凸版が主流であることは十分に理解しており、当社でもこれまで、樹脂凸版の製品

詳細をお伝えすることはできませんが、印刷品質の向上に主眼を置いており、ハイライトとシャドーのコントラストに関する再現性の向上を実現しました。また、日本のラベル市場では印刷後の樹脂凸版を一定期間保管し、リピートオーダーの際に再利用するケースが少なくないと聞きますが、新製品は耐刷性・再利用性に関しても同時に高めています。加えて、版の装着性にも優れており、ジョブチェンジの作業効率化にも貢献できるといった性能を有しています」

「新製品の発表はいろいろを予定していますか」

「現在、テストを精力的にこなしている段階ですが、よい結果が得られていることもあり、5月にタイ・バンコクで開催される「ラベルエキスポ東アジア18」で発表できるのでは。当社としては、盤石の状態を新製

品をアジアのラベル市場に向けて訴求したいと考えています」

「最後に、今後のアジア地域におけるビジネスの展望を」

「世界の印刷市場で培った最先端の技術ノウハウを生かし、日本を含めたアジア市場で新たなイノベーションを起こしたいと考えています。具体的には、開発中の樹脂凸版について、アジア市場で10%のシェア確保を目指したい。もちろん樹脂凸版以外にも、フレキソ方式の版材やスリープ等の印刷資材などを含め、さまざまな印刷市場に最適な製品をPRする所存です。また、デジタル印刷機のサイコンも当社のグループ企業であり、今後は版を必要としない印刷ソリューションに関しても、日本のラベル市場でさらなるシェア拡大を目指したいと考えています」